

科目分類	いのち・人間の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18016	2	後期	選択	1	15
授業科目名 (英文)	比較文化論 (Comparative Studies on Culture)				
担当教員名	森 雅文				
授業の概要及び到達目標					
<p>病気の治療やケアをめぐる広義の医療文化（現代医療・伝統医療・呪術的治療など）の比較を通して、その文化・社会的側面について学習する。「文化」とは、その社会で人々が当たり前で暮らすことを可能にする種々の知識や技術を含めた、人間の振る舞いや思考に関わる情報の総体である。諸社会の医療実践を「文化」という視点から振り返ることで、そのリアリティ（まさにそうだという感じ）がどのように創られているのかを捉え、自文化の「当たり前」を見つめ直すことを通して、他者に関わり続ける柔軟な実践を支えるための洞察力を養う。</p> <p>また、現代日本の医療文化を相対化して、これからの社会を支える「医療」と「看護」の可能性を考察する。近代医療の使命は「治す」ことにあったが、超高齢社会を迎える21世紀の日本では病気や障害とともに歩むことを「支える」医療への転換が求められている。そのヒントを、諸社会の「医療」や「病気」をめぐる文化のなかに見出していく。</p>					
準備学習等					
<p>予習は、毎回の授業時に指示する。身近な経験を文化として振り返り、自らの「当たり前」や「偏見」を考え直す機会としたい。復習は、自らの理解不足を自覚して補う学生の営みと捉えて、講義内容の確認に努めてください。興味を持った内容や新たな疑問について発展的な学習に向かうこともあるでしょう。これらの過程での質問は遠慮なくしてください。</p>					
成績評価の方法	<p>授業の進捗に合わせたテスト：中間テスト（40％）・最終テスト（45％） 前半のテストに付随する課題（5％）、最終のレポート課題（10％） 授業時の質疑応答や任意の提出物（コメントペーパーや発展的学習の成果など）は、その内容評価により加算点として考慮する。</p>				
テキスト	<p>特定の教科書は使わない。 毎回の授業時にプリント資料を配付する。</p>				
参考図書	<p>（※）波平恵美子編『系統看護学講座 文化人類学』医学書院 浮ヶ谷幸代『身体と境界の人類学』春風社 そのほか授業時の配布プリントで適宜に紹介する。</p>				
備考	<p>授業は講義形式だが、質疑応答を交えてすすめる。 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連は、別途明示されている各学科の履修系統図を確認してください。</p>				

## 授 業 計 画

- 第1回：文化としての「病気」と「医療」 — 比較文化のまなざし —  
病気や医療を「文化」として捉える基本の考え方や、文化の比較において求められる異文化（他者）と自文化（自己）への妥当的なまなざしについて学ぶ。
- 第2回：病気と呪術のリアリティ — 病むことの文化性と治ることの儀礼性 —  
「風邪」や「のろい」の経験を比較して、「病む」や「治る」ということがどのように文化を通してつくられるのかを考察して、文化を相対的に捉える考え方を学ぶ。
- 第3回：予防の技法の「正しさ」 — 保健医療の文化性と制度性 —  
古代の風水・仏教から現代の保健医療まで、社会防衛の技法がどのように正しさを得て、どのような世界観（人間や環境についての文化的な理解）を普及させたのかを比較する。
- 第4回：東洋医学の身体 — 漢方の技法と世界観 —  
近世（江戸時代）までの日本の医療を支え、近年は再評価もすすんだ東洋医学（漢方）の考え方や技法を概観して、独自の身体観や病気観について学習する。
- 第5回：西洋医学の身体 — 現代医療と看護の世界観 —  
現代の医療は西洋の人体観を基盤に置いてきた。その文化的特徴や形成・普及を捉えて、近現代に普及した人間と病気のあり方を文化として相対化する。
- 第6回：医療化される「いのち」 — 医療の社会性 —  
伝統的な民俗文化から現代の医療実践を捉えて、「いのち」という文化の変化と、現代の「医療化（人生の諸局面に医療が深く関与する状況）」について考察する。
- 第7回：老いと障害 — 健全性の相対化 —  
成長を謳う近代社会の中で「老い」や「障害」がどのように位置づけられてきたのかを踏まえてから、それを含めた「生きる」という実践への医療文化のあり方を考える。
- 第8回：医療のパラダイム・シフト  
人口減少と超高齢化を迎える21世紀の日本で求められる保健医療の可能性について、「医療・看護・福祉・介護」などの既存の枠組みを超えて考察する。

※ 授業回数分の計画として示しているが、授業の進捗によって予定は流動する。また、受講者の関心・要望に応じて予定の一部を変更する場合がある。